

SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）というカテゴリーに分類される薬剤がアメリカではうつ病治療の第一選択薬とされてきた。日本では一九九九年五月に初めて発売され、最近になってふたつめが世に出たし、臨床試験を行っているSSRIもある。発売前から一部のマスコミで「うつを治す魔法の薬」であるかのように報道され、個人輸入という形をとって服用されていた方も少なくないと聞く。しかしSSRIを治療手段として実際に手にしてみても、それほど画期的な薬剤ではないし、基礎的な研究で示されるデータやいかにも新しい薬であると思わせる「SSRI」という呼称に振り回されず、個々の薬剤ごとにきちんと臨床のデータを集積しなければならぬと考えている精神科医は少なくないのではないか。

日本のうつ病治療におけるSSRIの位置づけが決まってくてであろうこれからの数年間は、わが国のうつ病治療史の中でひとつの節目になると思う。そして、適切に薬剤

を評価する力があるかどうかという点で、うつ病治療に当たっている臨床家が試される時期でもある。

このようなことを考えながら本特集を企画した。うつ病治療の中で薬物療法の占める割合が大きくなるのはやむをえないが、精神療法的なアプローチもできるだけ取り入れた。身体に働きかける薬物療法以外の治療法も重要な選択肢として頭におく必要がある。治療の最前線と銘打つには、精神疾患の治療を述べるとき常に感じるような「おもはゆさ」も残るが、現在用いられるうつ病治療の方法はほぼ網羅されていると思う。

医師のみならずさまざまな職種の方が読まれるという本誌の特徴を思うと、やや教科書的であり、難しい項目があるかもしれないが、うつ病の治療法全体を知って、個々の治療をどう選択するかも重要な問題であるという編者の考えに免じてお許しいただきたい。

【特別企画】  
宮岡 等

編

# うつ病治療の最前線